４．医学系研究科

（１）医学系研究科の教育目的と特徴　・・・・・・・・・・　４－２

（２）「教育の水準」の分析　・・・・・・・・・・・・・　４－３

分析項目Ⅰ　教育活動の状況　・・・・・・・・・・　４－３

分析項目Ⅱ　教育成果の状況　・・・・・・・・・・　４-13

【参考】データ分析集　指標一覧　・・・・・・・・　４-16

福井大学医学系研究科

（１）医学系研究科の教育目的と特徴

教育目的

医学系研究科は，高度な医学及び看護学の知識を修得し，高い水準の医学研究を遂行できる研究能力や先端的で高度専門的な臨床技術を提供できる実践能力を身につけ，高い倫理観と豊かな人間性のもと，人類の健康福祉と社会福祉に貢献できる医療人を育成することを目的とする。修士課程は，豊かな人間性と幅広く高度な看護理論・技術を有し，高度専門的看護ケア実践能力を備え，地域保健医療福祉に貢献できる看護職及び看護学を体系化・深化させる研究を遂行できる指導的役割を担う教育・研究者を養成することを目的とする。博士課程は，医科学及び生命科学領域において，高度な知識及び科学的・論理的思考に基づき，独創性・創造性に優れた研究を遂行し，国際的にも活躍できる自立した研究者の養成，各診療分野で優れた臨床研究能力と先端的で高度な医療技能を備え，高い倫理観と研究マインドを持った臨床医高度専門医療人の養成，並びに地域に貢献ができる臨床研究能力や教育的指導力を備えた質の高い総合診療医・ＥＲ救急医・家庭医を養成することを目的とする。（福井大学大学院医学系研究科規程）

特徴

医学系研究科は，第３期の中期目標にある「地域創生を担う人材の中核的育成拠点として優れた高度専門職業人を育成する」ことを目標とし，また福井大学医学部の理念「愛と医術で人と社会を健やかに」を尊重して，現在の問題である「地域医療」の課題を総合的に解決できる人材を育成する教育課程を設定している。教育課程は多彩なコースから構成されており，スペシャリストとジェネラリスト，グローバルとローカルという多彩な価値観からなる多様な高度専門職業人を育成する体制が特徴である。

修士課程：複雑な看護問題を持つ個人，家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを提供するための特定の専門看護分野の知識・技術を深めた専門看護師を育成することにより，保健医療福祉の発展と看護学の向上に貢献している。看護に対する社会ニーズを踏まえ，修士課程では災害看護，がん看護に続き，2018 年に老年看護についての専門看護師教育課程（CNS）の承認を受け，2019 年度より老年看護 CNS の受入れを開始した。また，医学系研究科附属地域医療高度化教育研究センター看護キャリアアップ部門　看護キャリアアップセンターでは，慢性呼吸器疾患看護課程，手術看護課程（2020 年度より終了）に続き，2020 年度より認知症看護課程を開講し，高齢化社会に対応した医療・看護のニーズに応えるべく，看護師のキャリアアップ支援を行い地域の教育に貢献している。入学者は社会人学生が 90%以上を占め，入学定員充足率は 2018 年度に一時的に低下したものの，それ以外は 92%以上を維持している。

博士課程：１専攻「統合先進医学専攻」の中に「医科学コース」「先端応用医学コース」「地域総合医療学コース」の３コースを設定し，大学院生に多彩な選択枝を用意している。「地域総合医療学コース」は本邦初コースであり，福井県の地域性を鑑みて，被ばく医療も視野に入れた地域に貢献できる臨床研究や教育的指導力を備えた質の高いジェネラリストの養成を目指している。学生募集は秋期（10 月）にも行うことで学生への便宜を図っている，入学者は社会人学生が 96%以上を占め，入学定員充足率は 96%以上を維持している。

（２）「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ　教育活動の状況

＜必須記載項目１　学位授与方針＞

【基本的な記載事項】

・　公表された学位授与方針（別添資料 3904-i1-1）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

＜必須記載項目２　教育課程方針＞

【基本的な記載事項】

・　公表された教育課程方針（別添資料 3904-i2-1）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

＜必須記載項目３　教育課程の編成，授業科目の内容＞

【基本的な記載事項】

・　体系性が確認できる資料（別添資料 3904-i3-1）
・　自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 3904-i3-2）
・　研究指導，学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 3904-i3-3）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　2017 年度に，WHO の国際基準に基づく看護教育を実施している英国バーミンガム市立大学保健学部地域看護学の Joy Notter 教授を招き，医学部看護学科及び医学系研究科修士課程の教育について評価を受けた（ベンチマーキング）。教育課程・学生評価，図書館などの学修環境や附属病院との連携に関して，高い評価を得た（別添資料 3904-i3-2）。[3.1]

○　修士課程学生の大部分は社会人であるので，来学できる日時が限定されている。そのため，科目の選択範囲を増やして欲しいという学生のニーズが多くあった。この学生のニーズに応えるため，2018 年に履修科目の見直しを行い，履修科目（特論）の選択を，学生の研究テーマや関心に合わせて，共通科目や各研究領域の科目から領域を超えて自由に選択できるように選択範囲を拡充し，2019 年度入学生より実施した（別添資料 3904-i3-4）。[3.1]

○　専門看護師制度は，複雑で解決が難しい看護問題を持つ個人，家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供するための，特定の専門看護分野の知識・技術を深めた専門看護師を社会に送り出すことにより，保健医療福祉の発展

に貢献し併せて看護学の向上を図ることを目的としている。修士課程では，災害看護及びがん看護についての専門看護師教育課程（CNS）に続き，2018 年度には，高齢者に対する看護への社会ニーズを踏まえて，老年看護専門看護師教育課程（老年看護 CNS）を新設し，2019 年度に４名が入学した。災害看護専門看護師教育課程（災害看護 CNS）は全国で３研究科のみが実施しており，2016 年度には５名の本学修了生が国内初の災害看護専門看護師と認定された（全国で８名が認定）。これまでに，災害看護 CNS 修了生９名，及びがん看護 CNS 修了生４名の全員が認定審査に合格し専門看護師に認定されている。［3.2］

○　2007 年度から 2016 年度まで２期継続した「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム」は，2017 年度からは信州大学を加えた６校による「超少子高齢化地域での先進的がん医療人育成（北信がんプロ）」として，「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」に採択され，がん医療の新たなニーズに対応できる優れた「がん専門医療人材の養成」に取組んでいる。2018 年度から博士課程学生の受入が始まり，2018 年度４名（受入目標２名），2019 年度５名（受入目標２名）と想定を上回る数の学生が本科コースの履修を開始した。外部評価（総括）においては「大学院本科生コースは目標を上回る履修者を得ている点」等を優れた点として指摘されるなど，「問題や不十分な点はない。」との評価を得た（別添資料 3904-i3-5）。[3.2]

○　アレルギー専門医が少ない北陸地方において，総合アレルギー専門医の育成とその育成システム構築を目的として，本学が主幹校となり北陸の国立３大学が連携する「北陸高度アレルギー専門医療人育成プラン」が，文部科学省「課題解決型高度医療人材育成プログラム」に 2019 年度に採択された。これに伴い，2020 年度から，博士課程科目に「アレルギー学特論（２単位）」「アレルギー学特論演習（４単位）」を新設する。このプランにより高度アレルギー専門医育成の促進が期待される（別添資料 3904-i3-6）。[3.2]

＜必須記載項目４　授業形態，学習指導法＞

【基本的な記載事項】

・　１年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 3904-i4-1）
・　シラバスの全件，全項目が確認できる資料，学生便覧等関係資料（別添資料 3904-i4-2～4）
・　協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料　なし）
・　インターンシップの実施状況が確認できる資料（別添資料　なし）
・　指標番号５，９～10（データ分析集）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　地域・在宅医療から先端医療まで様々なニーズに対応できる医療者の養成と，県全体の医療のレベルアップ及び質の高い医療サービスの提供を目的として，医学部附属病院に福井メディカルシミュレーションセンターを 2014 年度に開設した。同センターでは，大学病院ならではの高度先進医療を繰り返し学ぶことがで

き，かつ地域の病院として在宅医療に関する学びや，多職種が連携してのトレーニングも可能であり，大学院生の学びに貢献している。2019 年度は，大学院生を含めた学生利用（出席）者数は 2,387 名，学生への部屋貸出件数は 477 件あり，それぞれの年度平均値を第２期と比べると，第３期ではそれぞれ 16%，37%増加した。シミュレータを用いた医療研修により，様々なニーズに対応できる医療者の養成に貢献できていると考えられる（別添資料 3904-i4-5）。[4.1]

○　修士課程の災害・がん・老年看護専門看護師教育課程（CNS）では，複雑で解決困難な看護問題をもつ個人，家族及び集団に高い水準の看護ケアを提供できる実践能力を育成するために，県内外の病院・施設等と連携して実践的な授業形態（フィールドワーク）を行っている。災害看護 CNS では，被災地域支援とともに，より実践的な能力を育成するために，2016 年から毎年，陸前高田の災害復興住宅における自殺防止活動への参加を継続している。さらに，2016 年の熊本地震では避難所運営支援，ボランティアセンターにおけるボランティアコーディネートを実施した。2018 年度の病院実習では，その一部を阿蘇温泉病院にて実施した。2018 年西日本豪雨の際は，大洲記念病院（愛媛県）で外来業務支援，地域住民のニーズ調査を演習の一部として実施した。がん看護 CNS では，医療機関だけでなく，地域で長期的に暮らす「がんサバイバー」の体験の実際とサバイバーへの支援活動の実際を，患者会の企画や支援を通して学んでいる。2018 年度より老年看護 CNS が加わったことにより，地域包括支援センターや，グループホーム，介護老人保健施設など，実習場所を地域のより多様な場に拡げた（別添資料 3904-i4-6）。[4.2]

○　修士課程学生は，「超少子高齢化地域での先進的がｄｄん医療人育成（北信がんプロ）」において，石川県立看護大学が開講する「がんライフケアコース」を受講可能である（2018 年度１名，2019 年度２名が受講）。また， 2018 年度からは，がんプロ「全国 e-learning クラウド」の受講も可能となり，授業の予習・復習及び，より専門的な知識を効率的に得る場となっている。[4.3]

○　博士課程では，大学院授業の一部を収録し DVD 貸出しによる講義聴講を，遠方に勤務する学生などに一部認めてきたが，2017 年度からは，県内の関連病院間ネットワークを利用した講義視聴（e-learning）を開始した。これにより，働きながら大学院課程に在学する学生の利便性を高めることができた。また 2018 年度から，大学院セミナーの一部を，キャンパス間を繋いだ TV 会議システム利用して，他研究科生に提供することを開始した（工学研究科学生 19 名が受講）。これにより医学系研究科学生が他の研究科学生と身近に討論する機会が得られ，学生のより深い学修に繋がった（別添資料 3904-i4-7）。[4.3]

○　博士課程では，2018 年度に「福井大学大学院医学系研究科の大学院担当教員の選考要項」及び「福井大学大学院医学系研究科博士課程担当教員に関する申合せ」を改訂して，大学院授業担当教員の選考方法を変更して，優秀な助教等が大学院教育に参画することを可能とした。これにより，大学院教育・研究の活性化が期待される。2019 年度には５名の助教が大学院授業担当教員として承認され，2020 年度から担当する（別添資料 3904-i4-8）。 [4.4]

○　博士課程学生の研究倫理に関する学習として，APRIN が提供する e-learning プログラム（CITI Japan）の受講を必須として，研究倫理の周知・理解の徹底に努めている。医学系研究科における研究倫理のさらなる向上を目的に，2017 年度に「福井大学大学院医学系研究科研究倫理に関するガイドライン」を作成し，ガイドラインを在学生及び新入生へ周知すると共に，確認書及び誓約書の提出を求めることとした。医学系研究科においては，これまでに研究倫理が問題となる事案は発生していない（別添資料 3904-i4-9）。[4.5]

＜必須記載項目５　履修指導，支援＞

【基本的な記載事項】

・　履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 3904-i5-1）
・　学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 3904-i5-2）
・　社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 3904-i5-3）
・　履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 3904-i5-4）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　修士課程では，全体及び分野毎のオリエンテーションで履修指導を行っている。長期履修を選択する学生に対しては，３年目に共通科目を履修することを勧めるなど，仕事と学業の両立が出来るように履修指導を行っている。学生からは「３年目に共通科目を履修したことで，学業と学習の継続，学びの深化につながった」との意見が多くあり，履修指導が効果的に行われていると判断される。また，第２期から継続して，院生室の整備や各分野の研究室を開放することで，学生がいつでも自己学習やグループ学習ができる環境を整えてきた。2018 年度に新たに PC 室の整備を実施して，自己学習やグループ学習支援を拡充した。さらに 2016 年度からは，修了生が学生の論文作成支援や演習指導を行うことで，学生の学習支援を行う取組を開始した（別添資料 3904-i5-5）。[5.1]

○　地域医療の高度化を推進すべく開設した地域医療高度化教育研究センター看護キャリアアップ部門（看護キャリアアップセンター）では，看護師のキャリア支援の取組として，慢性呼吸器疾患看護分野及び手術看護分野の認定看護師教育課程を開講し，認定看護師育成を行っている。慢性呼吸器疾患看護分野では，認定審査の合格率は第２期からほぼ 90％である。2020 年度には，高齢化社会に対応した医療・看護のニーズに応えるべく，手術看護分野を発展的に終了し，認知症看護分野の認定看護師教育課程を新たに設置する（別添資料 3904-i5-6）。[5.3]

○　博士課程では，本学医学科生及び卒後臨床研修中の医師を対象に，研究意欲のある医学科生の支援及び卒後臨床研修期間での大学院進学がスムーズに行えることを目的に，早期履修コース及び初期研修同時履修コース（ATM）を実施している。2017 年度には，早期履修コース対象の医学部医学科生を３年次生以上に拡大して，優秀な医学科学生の大学院進学促進を図った。その結果，医学科学生で早

期履修コースを利用する学生の数が 2015 年度０人，2016 年度０人，2017 年度４人，2018 年度５人，2019 年度８人と，増加した。今後，医学科卒業生の博士課程への進学が増加することが期待される（別添資料 3904-i5-7）。[5.3]

○　博士課程の「地域総合医療学コース」は 2013 年度から開講し，地域の中核病院や診療所等と密接に連携した教育指導体制を導入している。第２期（2013～2015 年度）で計７名，第３期（2016～2019 年度）は計５名の入学があり，地域と連携して教育・研究に従事している。第３期ではこの連携をさらに発展させて，福井大学と永平寺町とが連携した院外診療所（永平寺町立在宅訪問診療所）を 2019 年度に設置した。診療所では，大学院生１名が診療に参加し，総合診療の実践を学んでいる。診療所は，地域に根ざした総合診療医のキャリアアップの場として活用されている（別添資料 3904-i5-8）。[5.3]

＜必須記載項目６　成績評価＞

【基本的な記載事項】

・　成績評価基準（別添資料 3904-i6-1）
・　成績評価の分布表（別添資料 3904-i6-2）
・　学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 3904-i6-3）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　修士課程・博士課程とも，本学が 2017 年度に制定した「福井大学における多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン」に沿って，2018 年度に医学系研究科の成績評価法の見直しを行った。また「福井大学における成績評価基準等に関する規程」に従い GPA ポイントと評価点の対応を決めた（別添資料 3904-i6-1）。[6.1]

○　修士課程では「成績優秀者」，博士課程では「業績顕著者」として学長表彰を毎年１名ずつ表彰し，学生へのインセンティブとしている（別添資料 3904-i6-4）。[6.1]

○　修士課程では 2016 年度から，学生の成績を学生管理システム（学生ポータル）を利用して，閲覧できるようにした。これにより利便性を向上させるとともに学修成果の可視化を進めた（別添資料 3904-i6-5）。[6.2]

＜必須記載項目７　修了判定＞

【基本的な記載事項】

・　修了の要件を定めた規定（別添資料 3904-i7-1）
・　修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて修了判定の手順が確認できる資料（別添資料 3904-i7-2）
・　学位論文（課題研究）の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料 3904-i7-3）
・　修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（別添資料 3904-i7-2）（再掲）

・　学位論文の審査体制，審査員の選考方法が確認できる資料
（別添資料 3904-i7-4）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　修士課程においては，修士論文審査基準が不明瞭であったため，2016 年に「福井大学大学院医学系研究科修士論文審査実施細則」を改訂して，修士論文の審査基準を明記した。さらに，2018 年に審査のプロセスと審査に必要な文書様式を「福井大学大学院医学系研究科修士論文審査実施要項」にて整備した。これにより，大学院生は修士論文の審査基準及び審査プロセスを明確に理解することが可能となった。[7.1]

○　博士課程では，学位論文は審査のある学術誌に公表された論文と規定され，初回投稿前に剽窃チェックを受け，大学院博士課程小委員会の「修正不要」の判定を受けることを 2014 年度から義務付けている（福井大学大学院医学系研究科博士論文審査実施要項）。2018 年度からは，学位論文の評価体制・評価方法の整備の一環として，いわゆるハゲタカジャーナル(Predatory Journal)への学位論文掲載を防ぐために，学生及び指導教員にハゲタカジャーナルについて注意喚起するとともに，投稿論文の査読状況を大学院博士課程小委員会委員がチェックするよう体制を整えた。これまでにハゲタカジャーナルへの学位論文掲載は確認されていない（別添資料 3904-i7-5）。[7.2]

＜必須記載項目８　学生の受入＞

【基本的な記載事項】

・　学生受入方針が確認できる資料（別添資料 3904-i8-1）
・　入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
・　入学定員充足率（別添資料 3904-i8-2）
・　指標番号１～３，６～７（データ分析集）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　修士課程・博士課程で，医師以外の学生を対象とする「福井大学大学院医学系研究科振興奨学金」を制定して，医師以外の学生の大学院進学促進を図ってきた。第３期では４名の学生に，新規にこの奨学金受給を開始した。医師以外の学生の大学院進学をさらに促進する目的で，振興奨学金取扱要項を改訂して，2020 年度より対象学生数を各年度「若干名」に増加する予定。2020 年度以降は新規受給者が増加し，医師以外の学生の入学が増加することが期待される（別添資料 3904-i8-3）。[8.1]

○　修士課程では，2016，2017 年度の入学定員充足率が 100%，92%であったが，2018 年 58%と大幅に減少した。入学者確保のために，教員による病院訪問を 25%増加し 20 の病院に対して修士課程への勧誘を行った。また近隣県の病院への勧誘も増やした。その結果，2019 年度の定員充足率は 108%と上昇した。[8.1]

○　博士課程では，入学定員充足率は 96～104%で良好な数値を維持している。少子

化にともない，今後は大学院進学者の減少が予想されるため，研究意欲のある医学科学生を対象とした大学院説明会を強化するとともに，2017 年度には，早期履修コース対象の医学科学生を３年次生以上に拡大した。その結果，医学科学生で早期履修コースを利用する学生の数が 2015 年度０人，2016 年度０人，2017 年度４人，2018 年度５人，2019 年度８人と，増加した。今後，医学科卒業生の博士課程への進学が増加することが期待される（別添資料 3904-i5-7）（再掲）。[8.1]

＜選択記載項目Ａ　教育の国際性＞

【基本的な記載事項】

・　協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料　なし）
・　指標番号３，５（データ分析集）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　博士課程では，国際的に活躍できる自立した研究者の養成を目指している。その一環として，外部の有識者を招いた大学院セミナーにおいて外国人講師による講義を行っている。第３期では，外国人講師による講義の増加を目指した。その結果，外国人講師による講義が第２期と比べて，年度平均で約 60%増加した（別添資料 3904-iA-1）。[A.1]

○　地域医療高度化教育研究センター看護キャリアアップ部門（看護キャリアアップセンター）の認定看護師教育課程において，第２期に引き続き英国研修（高度実践看護師海外研修）を行っている。第３期においては合計 33 名の参加者（年度平均８名）があり，第２期と同じレベルを維持している。参加者からは，「海外における医療制度を理解し、国際的視点から医療のあり方を理解することができましたか」のアンケートに全員が概ね～非常に理解できたと回答するなど，高い評価を得ている（別添資料 3904-iA-2）。[A.0]

○　博士課程では，国際性を高めるために外国留学を推奨している。2018 年度には，博士課程の地域総合医療学コースの学生１名が，１年間のカナダ　サイモン　フレイザー大学への留学を行った。今後，大学院生の留学が増加することが期待される。[A.0]

○　博士課程では，グローバルに活躍できる自立した研究者の養成を促進するために，第３期では学生の国際学会での発表を奨励している。2015 年度博士課程修了生では 16 件の国際学会発表があったが，第３期の 2017 年度から国際学会発表が著明に増加し，2019 年度に 61 件となり，2015 年度の 3.8 倍に達した（別添資料 3904-iA-3）。[A.0]

＜選択記載項目Ｂ　地域・附属病院との連携による教育活動＞

【基本的な記載事項】

（特になし）

福井大学医学系研究科　教育活動の状況

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　医学系研究科は，「地域保健医療福祉に貢献できる看護職」や「地域に貢献ができる臨床研究能力や教育的指導力を備えた質の高い総合診療医・ＥＲ救急医・家庭医」の養成が教育目的の一つであることから，第２期から継続して，附属病院及び福井県内の病院に勤務する社会人を多く受入れている。第３期においては，修士課程では 84%，博士課程では 87%の入学者が附属病院及び福井県内の病院に勤務する社会人であり，地域医療の向上に貢献している。[B.1]

○　地域医療の高度化を推進するべく，地域医療高度化教育研究センター看護キャリアアップ部門（看護キャリアアップセンター）を開設し，慢性呼吸器疾患看護分野及び手術看護分野の認定看護師教育課程を開講し，認定看護師育成を行っている。第２期及び第３期とも，全国の 30 を超える医療機関から，年度平均で 30 名以上の受講者を受入れて，地域医療の高度化に貢献している。特に，慢性呼吸器疾患看護分野は，2015 年度から現在まで我が国唯一の教育課程であり，全国の慢性呼吸器疾患看護認定看護師の 68.3%が本学修了生である。我が国の呼吸器疾患看護の質の維持・向上に貢献している（別添資料 3904-iB-1）。[B.1]

○　博士課程は，「地域に貢献ができる臨床研究能力や教育的指導力を備えた質の高い総合診療医・ＥＲ救急医・家庭医を養成」することを教育目的の一つしている。博士課程の「地域総合医療学コース」は 2013 年度から開講し，地域の中核病院や診療所等と密接に連携した教育指導体制を導入している。第２期（2013～2015 年度）で計７名，第３期（2016～2019 年度）は計５名の入学があり，地域と連携して教育・研究に従事している。第３期ではこの連携を更に発展させて，福井大学と永平寺町とが連携した院外診療所（永平寺町立在宅訪問診療所）を 2019 年度に設置した。診療所では，大学院生１名が診療に参加し，総合診療を学んでいる。新たに福井県からの補助金を活用して，町のお祭りなどに出向いて，住民たちへの健康教育や街づくり活動を行った。また，「地域総合医療学コース」を担当する「地域プライマリケア講座」は，2009 年度に福井県高浜町の支援によって，全国初となる市町村による医学部寄附講座として開講し，2018 年度から第４期（2018～2020 年度）が新たにスタートした。地域医療に取組む一方で，博士課程教育にも貢献している。2016 年度から，社会疫学の地域社会応用と地域における Action Research の理論と実践を学ぶ「健康のまちづくりアカデミー」を実施し，これまでに３名の大学院生が参加している（別添資料 3904-i5-8（再掲），3904-iB-2）。[B.1]

○　原子力発電所の最多立地県である福井県では，被ばく医療に強い医師，災害看護専門看護師の養成への高いニーズがある。本学は第２期から緊急被ばく医療専門医の育成を進めており，この活動は第３期においても，医学系研究科博士課程「地域総合医療学コース」と修士課程「災害看護 CNS　課程」の講義と演習(福井大学緊急被ばく医療総合シミュレーション基礎コース FRESCO：Fundamental Radiation Emergency Course)で継続している。「放射線量測定」「防護服の着脱・除染」など，福島原発事故処理中に実際に発生した事例をもとにした「傷病者への初期対応（シミュレーション実習）」など臨床に即した演習を行っている。学

生は，地域と協働して防災訓練や地域住民への啓蒙活動にも積極的に参加して，災害時の被ばく医療はもとより，地域医療の核となる人材を養成している（別添資料 3904-iB-3）。[B.1]

＜選択記載項目Ｃ　教育の質の保証・向上＞

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　医学系研究科担当教員は学部教員が兼務しているので，ファカルティ・ディベロップメント（FD）は，大学院教育についても学部教育と包括して実施している。第２期に比べて，年度当たりの FD 開催件数は 38％増加し，年度毎の FD 参加者は 50％増加した。また，１回の FD 当たりの参加人数は 35％増加した。さらに，「FD の内容は今後の教育等に役立つ機会となりましたか？」の質問に対して「非常に役立つ」または「役立つ」と解答する参加者が 80％以上となり，FD が有効であったと言える（別添資料 3904-iC-1）。［C.1］

○　３年毎に教員評価を行っているが，第２期に比べて，最高評価（評価５）を獲得する教員の割合が 2.5 倍増加した。FD 等による教員教育が奏功して，教員の教育力が向上していると推測される（別添資料 3904-iC-2）。[C.1]

○　全学で学生生活実態調査を３年毎に実施している。医学系研究科においては，約 85％の学生が，多くの授業に満足し多くの授業を理解できている。また，教員に対しても，約 70％学生が満足している。これは，上記の FD や教員評価を実施した成果と考えられる（別添資料 3904-iC-3）。[C.2]

○　修士課程においては，毎年度１月に在学生アンケートを実施している。第２期から継続して概ね良好な満足度が得られている。研究活動を中心とする教育活動について，第２期から継続して，ほぼ 100％近い学生が，分析指導や口頭発表指導に満足しているが，「非常に当てはまる」と高評価した学生が第２期の０％から 50～67％に大幅に増加した。この結果も，上記の FD や教員評価を実施した成果と考えられる。また，24 時間開館している図書館に対する満足度が高く，第２期に比べて満足度が大幅に向上した（61→80％）（別添資料 3904-iC-4）。[C.2]

○　医学系研究科におけるマネジメント体制は，医学部附属教育支援センターを中心に「点検・評価」を行い，「改善」案を作成する。修士課程委員会・博士課程委員会・医学部教育委員会は改善のための「計画」を立案し，各教員と学務課職員が「計画」を「実施」する体制となっている。この PDCA サイクルを回すことで教育の質の保証・向上を図っている。第３期においては教育 IR 部門の設置など医学部の教育マネジメント体制と連動した改善を行った（別添資料 3904-i3-2）（再掲）。[C.2]

○　2017 年度に，ＷＨＯの国際基準に基づく看護教育を実施している英国バーミンガム市立大学保健学部地域看護学の Joy Notter 教授を招き，医学部看護学科及び医学系研究科修士課程の教育について評価を受けた（ベンチマーキング）。教

育課程・学生評価，図書館などの学修環境や附属病院との連携に関して，高い評価を得た（別添資料 3904-i3-2）（再掲）。[C.2]

＜選択記載項目Ｄ　リカレント教育の推進＞

【基本的な記載事項】

・　リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物，ウェブサイト等の該当箇所（別添資料 3904-iD-1）

・　指標番号２，４（データ分析集）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　社会人入学者の割合は，第２期では修士課程 100%，博士課程 99%であったが，第３期においても，修士課程及び博士課程で 96%と，継続して高い割合を示している。第３期においては，大学院設置基準第 14 条に基づく教育方法の特例を希望する社会人学生数が，第２期と比べて増加した。<必須記載項目４　授業形態，学習指導法>で記述したように，e-learning による講義を増加するなど，社会人学生に対する利便性の向上を図っている。修士課程，博士課程ともに，大部分の修了生は教員または医療機関へ就職し活躍している（分析項目Ⅱ　教育成果の状況参照）（別添資料 3904-iD-2）。[D.1]

○　修士課程では，看護師のリカレント教育として，地域医療高度化教育研究センター看護キャリアアップ部門（看護キャリアアップセンター）において，慢性呼吸器疾患看護分野及び手術看護分野の認定看護師教育課程を開講し，認定看護師育成を行っている。2012～2015 年度では，慢性呼吸器疾患看護分野 112 名と手術看護分野 19 名，合計 131 名の認定看護師を育成したが，第３期（2016～2019 年度）では慢性呼吸器疾患看護分野 107 名と手術看護分野 52 名，合計 159 名の認定看護師を育成した（第２期より 21%増加）。また，慢性呼吸器疾患看護分野は，2015 年度から現在まで我が国唯一の教育課程であり，全国の慢性呼吸器疾患看護認定看護師の 68.3%が本学修了生である。我が国の呼吸器疾患看護の質の維持・向上に貢献している（別添資料 3904-iB-1）（再掲）。[D.1]

分析項目Ⅱ　教育成果の状況

＜必須記載項目１　修了率，資格取得等＞

【基本的な記載事項】

- 標準修業年限内修了率（別添資料　3904-ii1-1）
- 「標準修業年限×1.5」年内修了率（別添資料　3904-ii1-2）
- 博士の学位授与数（課程博士のみ）（別添資料 3904-ii1-3）
- 指標番号 14～20（データ分析集）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　修士課程では，学生による学会での成果発表は通常修了翌年に行われる。修士課程修了生による学会発表は，第２期より 42%増加して，年度平均 21 件となった。特に 2018・2019 年度の増加が著明であった。また，修了生による論文発表は第２期（６年間）で合計８件であったのが，第３期（４年間）で６件と，着実な成果が得られている。第３期では，これまで修了率は必ずしも高くないが，教育の質の保証・向上の成果が見られること（選択記載項目Ｃ）と学会発表や論文発表が増加傾向にあることから，今後修了率は改善すると期待される（別添資料 3904-ii1-4）。[1.2]

○　博士課程では，学位論文を投稿した雑誌のインパクトファクター（IF）は，第２期後半から継続して 3.0 以上を維持している。第３期は，Journal of the American Chemical Society（IF 12.113)など著名な雑誌への学位論文掲載が増加した結果，年度平均 IF は第２期の 3.06 から 3.25 に増加した。また，博士課程学生が代表となって申請し，採択された科学研究費助成（科研費）件数は第２期より年度平均で 14%増加した。特に 2019 年度は第２期及び３期で最高の採択件数であった。分担を含めた総採択件数は，第２期とほぼ同数を維持した。また，博士課程学生の修了時における受賞歴をみると，第２期と比べて受賞件数（75%増加），受賞人数（30%増加）ともに大幅に増加した。特に国際学会での受賞が３倍以上に増加している。さらに，＜分析項目Ⅰ選択記載項目Ａ　教育の国際性＞で記述したように，国際学会発表が 2017 年度から著明に増加している（別添資料 3904-iA-3）（再掲）。これらのデータは，大学院生の研究の質が向上していることを示していると考えられる。第３期では，これまで修了率は必ずしも高くないが，教育の質の保証・向上の成果が見られること（分析項目Ⅰ選択記載項目Ｃ）と大学院生の研究の質の向上が見られることから，今後修了率は改善すると期待される（別添資料 3904-ii1-5）。[1.2]

＜必須記載項目２　就職，進学＞

【基本的な記載事項】

- 指標番号 21～24（データ分析集）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　修士課程では，第２期と同様，第３期においても就職率は 100％を維持している。県内就職率は 88％で，第２期とほぼ同じ水準を維持しており，福井県の医療への高い貢献度を保っている（別添資料 3904-ii2-1）。[2.1]

○　博士課程では，第２期と同様に，第３期においても就職率はほぼ 100％を維持している。県内就職率は第２期の 79％から，87％に上昇し，福井県の医療への貢献度が増している（別添資料 3904-ii2-1）（再掲）。[2.1]

＜選択記載項目Ａ　卒業（修了）時の学生からの意見聴取＞

【基本的な記載事項】

・　学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
（別添資料 3904-iiA-1）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　修士課程修了時の学生からの意見聴取では，多くの項目で良好な評価を得た。大学院教育全体に関して「自分のキャリア形成，向上に役立っている」と考える学生が 82％で，第２期から継続して高いレベルを維持している。特論については，すべての学生がシラバスや教員の講義方法に満足し，満足する学生の割合は，第２期より 30～50％増加した。課題研究については，第２期から継続して，全員が内容に満足しているが，特に第３期では，「非常に当てはまる」と回答した学生が，第２期の０％から 33～67％に大幅に増加した（別添資料 3904-iiA-1）。[A.1]

○　博士課程修了時の学生から，2019 年度に意見聴取した学生意識・満足度調査の結果では，博士課程の教育全般，専門教育全般に対してはほとんどの学生が満足していた。基礎学力，専門的知識や技能，実践的能力，研究力，科学的・理論的に判断，説明できる能力，研究倫理，専門的・先端的な医療（看護含む）を地域医療に展開する能力など本研究科が目指すグローバルな視野を持った高度専門職業人としての能力を身につけたと回答する学生がほとんどであった（別添資料 3904-iiA-2）。[A.1]

＜選択記載項目Ｂ　修了生からの意見聴取＞

【基本的な記載事項】

・　修了後，一定年限を経過した修了生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 3904-iiB-1～2）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　2020 年３月に実施した修士課程修了生からの意見聴取では，本学の大学院教育に関して，満足できるとの回答が多く，高い評価であった。「非常にそう思う」と「そう思う」を合計した割合は，第２期と比べて全般に高く，学生の満足度が向上したと考えられる。特に，「専門の領域で高度な看護ケアを実践するための専門的知識を有していますか」の質問に対しては，71％が「非常にそう思う」ま

たは「そう思う」と回答し，第２期よりも 42%増加した。学生の満足度を一層向上させるためには，仕事と家庭を両立させる仕組みをさらに整備することが有効であることが読み取れるため，遠隔講義や e-learning の導入を第３期後半で検討する（別添資料 3904-iiB-1）。[B.1]

○　2020 年３月に実施した博士課程修了者からの意見聴取は，全体的に好評価であり，第２期と比べて，「非常にそう思う」と「そう思う」を合計した割合が 31～90%増加した。特に，「カリキュラム全体の学修内容を十分に消化できましたか」の質問に対して，76%が「非常にそう思う」または「そう思う」と回答し，第２期よりも 90%増加した。「本学に入学して，自分自身は人間的に成長できたと思いますか」の質問に対しては，81%が「非常にそう思う」または「そう思う」と回答し，第２期よりも 30%増加した。学生満足度のさらなる向上のためには，日常診療と研究を両立させる仕組みをさらに整備することが有効であることが読み取れるため，e-learning の拡充を第３期後半で検討する。留学生との交流や，国際学会等での発表や海外研究者との共同研究など，国際的な経験を求める意見があり，国際化のさらなる推進について第３期後半で検討していく（別添資料 3904-iiB-2）。[B.1]

＜選択記載項目Ｃ　就職先等からの意見聴取＞

【基本的な記載事項】

・　就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 3904-iiC-1～2）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　修士課程においては，2020 年３月に実施した就職先からの意見聴取において，多くの項目で肯定的な回答が得られ，高い評価であった。特に，「本学修了生から判断して、本学の教育は満足できるものとお考えですか」の質問に対して，86%が「非常にそう思う」または「そう思う」と回答があり，本学の大学院教育に対して大部分の修了生就職先が満足していると判断される（別添資料 3904-iiC-1）。[C.1]

○　博士課程においても，2020 年３月に就職先からの意見聴取を実施し，多くの項目で肯定的な回答が得られ，高い評価であった。「本学修了生から判断して，本学の教育は満足できるものとお考えですか」の質問に対して，85%が「非常にそう思う」または「そう思う」と回答があり，第２期の 67%と比べて 27%増加した。また，「独創的な研究を遂行する能力を有していますか」の質問に対しては，「非常にそう思う」または「そう思う」と回答した就職先が，第２期の 44%から 83%に大幅に増加した。本学の大学院教育に対して大部分の修了生就職先が満足していると判断される（別添資料 3904-iiC-2）。[C.1]

【参考】データ分析集　指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数（常勤、常勤以外別）	職員総数（常勤）／本務教員総数 職員総数（常勤以外）／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1．5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1．5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※　　部分の指標（指標番号８、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。